

福祉をかえる 「アート化」セミナー

「アートを通じて幸福で豊かな人生を歩むことは、全ての人の権利」という考えのもと実施するセミナーです。社会とアートの関わりについて、さまざまなジャンルの人たちの考え方や取り組みを学ぶとともに、障害のある人のアート活動支援に必要な創作の環境づくりやサポートする人の関わり方、組織における仕組みづくりについて、全国各地の実践者から話を聞く機会をつくっています。このセミナーをとおして、障害福祉の分野だけでなく、社会全体において人と人の関係、人と地域との関係を豊かにしていくことをめざしています。今回はオンラインでの実施となりますが、このような状況だからこそ必要なこと、できることについて学び合う機会にしたいと思います。

みなさまのご参加をお待ちしております！

申し込み方法



上記のSTORESから参加したい回のセミナーを選択して、必要事項を記入のうえ参加費をお支払いください。メールや電話でのお申し込みの場合は、下記お問い合わせ先へ「お名前、ご所属、参加希望日」をお知らせください。振込先をお伝えいたします。ご入金確認次第ご視聴に必要なURLをご案内いたします。

<https://tanpoponoye.stores.jp/>

※ご入金いただいた参加費は、原則としてご返金いたしかねますのであらかじめご了承ください。



写真提供：山口情報芸術センター〔YCAM〕 撮影：谷 康弘

福祉をかえる 「アート化」セミナー



「しごと」2月24日(木) | 3月 9日(水)

「学び」3月 2日(水) | 3月16日(水) 各回とも 18:30~20:00

「コミュニケーション」3月23日(水) | 3月29日(火)

参加対象者

障害のある人のアート活動に関心のある人。アートによるプログラム開発、仕事の開発、アートスペースづくりに関心のある人。

【参加費 各回500円 | オンライン配信 (YouTube)・要事前申込 | ※各回の配信にあたっては、文字による情報保障を行います。

主催：一般財団法人たんぽぽの家 / 本事業は「令和3年度障害者芸術文化活動普及支援事業」(厚生労働省)の一環として実施します。

*各回のオンライン配信に関して、赤い羽根共同募金の助成により実施します。

*当日参加できない方は、セミナー参加券をご購入いただくと、後日、アーカイブ映像がご覧いただけます。

全6回オンライン開催!

当たり前だと思っていた日常のあらゆる場面を、見直す機会が増えました。福祉の現場は、人と人が相対して仕事や表現が生まれ、育まれる場所でもありますが、物理的にも精神的にも、人や環境との距離感が大きく変わってきています。個人が社会とつながるきっかけは、他者との交流のなかにあります。人と出会って何かを共有したり、誰かに認められたり。これまでとは違う距離感に戸惑いながらも、社会とつながる道筋や実感は、アートによってより鮮明になるのではないのでしょうか。

このセミナーでは今あらためて、アートを通して個人が社会とつながることを考えるために、「しごと、学び、コミュニケーション」をトピックに、話し合います。

お問い合わせ先



〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 一般財団法人たんぽぽの家
Tel 0742-43-7055 Fax 0742-49-5501 E-mail: artsoudan@popo.or.jp



2月24日(木) | 18:30~20:00 |

「福祉だからこそできること」

ゲスト:原田 啓之(PICFA)

企業や行政、大学など他分野と協同したプロジェクトを展開するPICFA。壁画の制作や宿泊施設への作品設置など、華やかにも見える活動の根底にあるのは、その場にいる人を軸に置くこと、そして福祉だからこそできることを大切にしている姿勢です。障害のある人と共に、どのようにプロジェクトを進め、さまざまな分野の人とつながりをつくることのできているのか、原田さんに疑問をぶつけましょう。

聞き手:岡部 太郎(一般財団法人たんぼぼの家)

「しごと」

3月9日(水) | 18:30~20:00 |

「つなぐ人を育てる」

ゲスト:武田 和恵(やまがたアートサポートセンターら・らら)

福祉施設がデザイナーやアーティストと協同する事例が増えています。他分野の人とつながることで、今までになかった仕事が増えることがあります。そのときに必要なのは、異なる分野の人たちをつなぐコーディネーターの存在。「つなぐ」人であるコーディネーターはどういったことが求められるのでしょうか。東北で、福祉とアートをつなげてきた武田さんにお聞きします。

聞き手:坂野 健一郎(新潟アール・ブリュット・サポート・センター NASCセンター長)



3月2日(水) | 18:30~20:00 |

「あそびとまなびを両立させる」

ゲスト:滝沢 達史(ホハル代表/アーティスト)

障害のある人もない人も、大人も子どもも、ただ一緒にいられるような社会をつくることをめざす放課後等デイサービス「ホハル」。通ってくる子どもや、はたらくスタッフそれぞれが自分の意思をもって進むことを大切にしています。あそびと学びを両立させる活動を実現させるには、どのような工夫や仕組みがあるのか、お聞きします。

聞き手:内山 尚子(たんぼぼ相談支援センター)

「学び」

3月16日(水) | 18:30~20:00 |

「誰もが学び続けられる環境をつくる」

ゲスト:佐竹 真紀子(美術作家/一般社団法人NOOK)、伊藤 光栄(エイブル・アート・ジャパン東北事務局)

障害のある人が学校を卒業したあとも学び続けることのできる環境づくりが注目されています。誰もが孤立せずに社会のなかで、自身の興味を知ったり学びを深めていったり、そうしたことを話せる仲間を必要としているのではないでしょうか。多様な学びができるワークショップや勉強会を企画運営しているSOUPの事例をお聞きし、生涯学習と表現活動、文化芸術の関係について話します。

聞き手:森下 静香(Good Job! センター香芝)



3月23日(水) | 18:30~20:00 |

「自分たちの手でつくる 未来の運動会」

ゲスト:西 翼(運動会協会 理事、山口情報芸術センター [YCAM] キュレーター)

人が密集したり接触してはいけない、大きな声を出してはいけない……、いわゆる運動会を行うには今の社会状況は完全な逆風です。自分たちの手に入るものから運動会種目をみんなでつくってきた「未来の運動会」ではそんな状況も前提に組み込みながら、オンライン版の「未来の運動会」を開催しました。人が集うことや、ひとつの出来事を共有すること、そうした時の身体感覚やコミュニケーションのあり方は、どのように変化したのでしょうか。たんぼぼの家でのIoTやFABを活用した活動事例の紹介を交えながら、与えられた条件の中で創造性を発揮する取り組みから考えていきます。

聞き手:小林 大祐(Good Job! センター香芝)

写真提供:山口情報芸術センター [YCAM] 撮影:谷 康弘

「コミュニケーション」

3月29日(火) | 18:30~20:00 |

「老いや障害を捉えなおして共に楽しむ関係をつくる」

ゲスト:菅原 直樹(OibokkeShi)

認知症の人の見ている世界を演劇体験として観客と共有するOibokkeShi。老いにとまなう一見ネガティブに思えることも、視点をかえれば見え方が変わってくるのではないのでしょうか。ここでは、たんぼぼの家での障害のある人との演劇創作についての報告も交えながら、演劇を通した関わりから、そうしたことをひろく発信・発表していくときに心がけることなどお聞きします。

聞き手:佐藤 拓道(たんぼぼの家アートセンター HANA)



Guest Speaker



原田 啓之(PICFA)

兄に知的障害があり、障害とは何かを横目に育つ。高校時代はソフトテニスで日本一になるも、福祉を変えたいと日本福祉大学進学、卒業。音楽とアートを仕事にするJOY倶楽部に15年勤務後退職。2017年に鹿毛病院内に「PICFA」を立ち上げ、勤務。創作活動を「お仕事」として位置付け、企業とのタイアップなどグローバルに活動中。



武田 和恵(やまがたアートサポートセンターら・らら)

1999年、東北芸術工科大学デザイン工学部情報デザイン学科卒業。学生の頃、奈良県のたんぼぼの家でボランティアに行き、障害のある人のアートに触れ、障害のある人に関わりたい一心で山形市の福祉施設に勤務。2012年から、一般財団法人たんぼぼの家、NPO法人エイブル・アート・ジャパンの東日本復興支援プロジェクト東北事務局として障害のある人の仕事づくり、芸術活動支援事業に携わり、中間支援やコーディネートの重要性を実感。2018年より現職。



坂野 健一郎
(新潟アール・ブリュット・サポート・センター NASCセンター長)

新潟県佐渡市出身新卒で(福)新潟県社会福祉協議会に入職。主に、ボランティア活動の推進や市町村社協との協働事業、生活困窮者自立支援事業などを担当する。2017年1月に(福)みんなていきに入職し現職。びっくりするぐらい不器用なので展示業務はできません。



滝沢 達史(ホハル代表/アーティスト)

山に登る、子どもと遊ぶ、快適を求め美術家。2018年西日本豪雨で被災した子どもの学び場「ホハル」代表。教育や社会問題にアートの手法で関わりながら、時代を面白く越える表現について探求している。



佐竹 真紀子(美術作家/一般社団法人NOOK)

美術作家。1991年宮城県出身。在住。武蔵野美術大学大学院修了。2018年よりエイブル・アート・ジャパンのSOUPの事業に参加、「アトリエつくるて」のファシリテーターや「スウブノアカデミア」のコーディネーターとして関わる。一般社団法人NOOKとしても活動中。



伊藤 光栄(エイブル・アート・ジャパン東北事務局)

宮城県塩竈市出身。東北福祉大学卒業。2021年よりNPO法人エイブル・アート・ジャパンで働き始め、生涯学習事業「スウブノアカデミア」の運営を担当している。



西 翼(運動会協会 理事、山口情報芸術センター [YCAM] キュレーター)

2017年まで約5年、山口情報芸術センター [YCAM] でキュレーターとして在籍したのちにフリーランスとなる。2015年「YCAMスポーツハッカソン」、「未来の山口の運動会」の立ち上げをおこない、フリーランスとなった後も毎年企画運営に携わる。2017年から一般社団法人運動会協会理事。大阪、東京、京都、福岡など各地で「未来の運動会」を実施。2021年4月にYCAMに復職。



菅原 直樹(OibokkeShi)

俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OibokkeShi 主宰。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2012年、東日本大震災を機に岡山県に移住。2014年「老いと演劇」OibokkeShiを岡山県和気町にて設立し、演劇活動を再開。並行して、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。